

# 平成25年度土木学会中部支部調査研究委員会事業報告書

## －地域の歴史・教訓に減災を学ぶ調査研究委員会－

### 1. メンバー

委員長	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 教授	河川工学
委員	秀島 栄三	名古屋工業大学大学院 教授	土木計画学
委員	牛山 素行	静岡大学防災総合センター 准教授	防災工学
委員	竹内 礼子	駿府静岡歴史楽会	郷土史
委員	高山 純一	金沢大学理工研究域教授	土木計画学
委員	宮島 昌克	金沢大学理工研究域教授	地震工学
委員	溝口 敦子	名城大学理工学部 准教授	河川工学

### 2. 研究の背景と目的

土木工学は、土木施設が有する災害を防御あるいは制御する機能を向上させることを中心に減災に取り組んできた。しかしながら、それらをもって巨大災害による損失を完全に抑えることはできない。地域の様々な災害リスクと固有の環境条件に的確に把握し、社会が発災に最良な形で対応するために、災害体験に基づく教訓、ものの謂われ、土地の命名などに学び、それらを今後活かすことは、どのような時代にあっても有効であり、これまでも実践されてきている。

今年度、本委員会では、減災効果を向上させることを目的として改めて地域の歴史・教訓に学び災害シナリオや災害時の対応へ取り入れることを検討する。将来的には、歴史・教訓に関する知見や取り組みを土木整備にどれだけ反映させることができるか、その効果と可能性を明らかにしていくことを視野に入れて調査および研究を実施した。

### 3. 活動内容

本調査委員会は、基本的に土木学会中部支部タスクフォースと連携しながら、以下に示すような歴史教訓に関する知見や資料を収集し、災害時の対応等を検討した。

1) 現地視察「立山砂防現場と鳶山崩れ」の実施と土木学会 100 周年記念事業歴史教訓に学ぶ現地見学会への参加、資料収集 【参考資料1】

(2013 年 8 月 7-8 日, 9 月 11 日)

土砂災害として鳶山大崩壊について学ぶべく、富山平野と立山砂防の現場、水谷村の視察を行った。現地に踏み入ることにより、過去の爪痕を目の当たりにし、現在の取り組みについても学んだ。また、土木学会 100 周年記念事業現地見学会(大規模土砂災害編)へ参加した竹内委員が、地すべりに関わる地名についてまとめた。

参考資料1-1:土木学会 100 周年記念事業現地視察「歴史教訓に学ぶ現地見学会(大規模土砂災害編)」実施報告書 抜粋

参考資料1-2:地すべり地名について

## 2) 四国地方における災害に対する取り組みに関する勉強会と災害痕跡等の現地調査

### 【参考資料 2】

南海トラフ地震における被害想定が深刻な高知県における先駆的な対策や取り組みを調査するために、高知県と高知市における取り組みの説明を受け議論を交わした。また、災害の爪痕が残る場所を訪ね災害史に学ぶための取り組みもあわせて学び、資料収集(参考資料 2-2)も行った。

参考資料2-1: 現地調査報告書抜粋

参考資料2-2: 四国地方における四国88話

## 3) 中部支部タスクフォースの全体会議・打ち合わせへの参加

(2013年6月, 8月, 11月, 2月)

中部支部タスクフォースでは、4回の全体会議および打ち合わせの中で、まず、災害の自然現象から社会的条件に関わる被災現象の連鎖シナリオやその災害現象の各段階で必要とされる公的な対応を時系列で整理した。特に、過去の災害を参考に、想定されているスーパー伊勢湾台風、南海トラフ巨大地震、鳶山崩れに対象災害を絞り、災害時の事象、各所の連携を時系列で整理してきた。なお、本調査委員会は、この時系列整理のうち、過去の事例を組み込むことを視野に入れ災害事例の情報収集の役割を果たしてきた。

## 4) 中部支部タスクフォースの活動報告会の開催 (2014年3月14日)

タスクフォースの活動を通じたこれまでの支部調査研究委員会の検討内容について討議するため、タスクフォース活動報告会を開催する。特に、その中で本委員会活動の成果として、いかに歴史教訓に学び災害に備えるかについてパネルディスカッションを行う予定である。

## 4. 研究の成果と今後の展望

申請当初、以下のステップで検討予定であった。

- (1) 土木分野内外双方の関係者が参加して、地域の歴史を理解するプロセスのあり方を考察する。
- (2) この地域における災害、今後起こりうる災害に向けた計画や施策を対象とし、地域の歴史や教訓がどれだけ反映させることができているかを検証する。
- (3) 東日本大震災を受けて各方面で見直し立案されている防災計画と当委員会の検討結果を対比することで、歴史や教訓を施策に反映させる。

これに対し、昨年度は、(1)(2)として、他分野の委員が参加し、南海トラフ巨大地震に対する三重県の津波防災に関連する計画や施策の調査検証、鳶山崩れによる富山県の土砂災害の災害資料収集とあわせて議論するとともに、4回の打ち合わせを実施した。

今年度は、(3)を目指し、追加調査等を実施し、災害事象の時系列シナリオの作成をさらに進めた。本委員会が歴史的教訓などを学んだ上で災害シナリオを描くことで、現在想定されている被害に対する防災計画がどこまでそのシナリオに対応しているのか検討が可能となっており、今後、より有効な防災対策へつなげることが期待できる。

以上